

緑区帰宅困難者支援マップとは

大地震の発生により公共交通機関が停止すると、緑区内でも通勤・通学等で外出中の多くの方が帰宅困難になります。緑区帰宅困難者支援マップは、日頃の備えや地震発生時の対応、徒歩帰宅する場合の円滑な活動を支援するために作成したものです。

関係機関連絡先

種別	名称	電話番号
防災全般	緑区役所総務課	045-930-2208
JR東日本	JR東日本お問い合わせセンター	050-2016-1600
東急電鉄	東急お客さまセンター	03-3477-0109
市営バス、市営地下鉄	横浜市コールセンター	045-664-2525
東急バス	東急バスお客さまセンター	03-6412-0190
相鉄バス	相鉄お客さまセンター	045-319-2111
神奈川中央交通	中山営業所	045-937-2804

大地震がおきたときは・・・

外出中に大地震が発生したときの望ましい行動は・・・
むやみに移動を開始しない が基本です！
 まず落ち着いて、正確な情報を収集しましょう。

まず身の安全の確保、そして正確な情報の入手

大地震がおきたときは、まず机の下などで身の安全を確保し、できるだけ安全な場所に留まりましょう。そしてデマ等に惑わされず、落ち着いてラジオやテレビなどからの**正確な情報の把握**に努めましょう。

家族に安否の確認

少し落ち着いたら、あらかじめ決めていた安否確認手段で家族に安否の連絡を行いましょう。自分も無事であることを家族に伝えることで、家族も安心し落ち着いて行動できるようになります。

みんながむやみに移動すると、歩道が「満員電車状態」に！

大きな地震が起こると、多くの交通機関が点検等のためにしばらく運休します。そのとき、みんなが一緒に帰宅しようとする、駅前には人が滞留して大混雑したり、歩いて帰ろうとして歩道が**満員電車状態**になります。そうすると**集団転倒**が起こるなど、非常に危険な状況になる可能性があります。また、帰宅途中で物が落下してきたり、火災が起こっていたりと、数多くの危険が想定されます。

駅周辺には立ち寄らない

外出時に発生した際には、**混雑している可能性のある駅周辺へは行かない**ようにしましょう。

帰宅困難者支援マップ

平成24年3月
横浜市緑区・緑火災予防協会

事前にできること

帰宅困難者は大都市特有の深刻な被害

「むやみに移動を開始しない」ことが大切です。首都圏で大地震が発生すると、鉄道などの交通機関が止まってしまう、帰宅できなくなるおそれがあります。多くの方が一緒に帰宅しようとなると、路上や駅周辺で大混雑が発生し、大変危険な状態になります。

まず、家族で確認

「むやみに移動を開始しない」ことが基本であることを家族で確認し、大地震で交通機関が途絶えたときは、帰宅できない場合もあることをあらかじめ伝えておきましょう。

安否確認手段を決めておこう

急いで帰宅しようとするのは、家族や自宅の被災に対する不安が大きな動機となります。家族や自宅が無事であることが分かれば、急いで帰る必要がなくなることから、**安否確認の手段（どの手段で、どの電話番号で登録・再生するか等）**について家族内で決めておきましょう。

徒歩帰宅する場合の備え

大地震発生後、**十分な情報がないまま徒歩帰宅を開始するのは大変危険**ですので控えましょう。まず、翌日くらいまで安全なところに留まることを検討しましょう。十分な情報を得て、徒歩帰宅しても大丈夫であるということを確認できた場合は、十分な準備の上、帰宅経路を確認し、自分の体力を過信しないで余裕を持って帰宅しましょう。

- ### 安全な徒歩帰宅のための心得
- 耐震補強、家具の固定で、家族は安全 職場も安全
 - 171 そして携帯メールの伝言板 複数の安否確認、一安心
 - 職場にも、一日分の水・食料
 - 正確な情報を収集して、落ち着いて
 - 慌てず騒がず、時差帰宅
 - 日頃から、帰宅経路をシミュレーション
 - 携帯も、ラジオも、必ず予備電池
 - 助け合い、励まし合って徒歩帰宅
 - スニーカー、小さなリュックに傘入れて
 - 途中での、支援に感謝、無事帰宅

帰宅グッズ

品名	チェック欄
簡易食品	
飲料水	
スニーカー	
地図(緑区外も含む)	
携帯ラジオ	
懐中電灯	
携帯電話充電器	
雨具・タオル	
動きやすい服	

災害用伝言ダイヤル

災害時には、安否確認や問合せなどの電話が急増し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。そのような時、この「災害用伝言ダイヤル」を使って、家族や知人に伝言を録音したり、相手方の伝言を再生することができます。

「171」災害用伝言ダイヤルの利用方法

伝言の録音方法

171をダイヤル

ガイダンスが流れます

録音の場合 **1**

ガイダンスが流れます

XXXX XXXX XXXX

伝言の再生方法

171をダイヤル

ガイダンスが流れます

再生の場合 **2**

ガイダンスが流れます

XXXX XXXX XXXX

NTT東日本 災害用伝言ダイヤル
<http://www.ntt-east.co.jp/saigal/>

携帯電話災害用伝言サービス

大地震などの災害が発生した場合、各携帯電話事業者が運用する「災害用伝言板」を使って安否情報を登録・確認することができます。

- NTT ドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au by KDDI <http://dengon.ezweb.ne.jp>
- ソフトバンクモバイル <http://dengon.softbank.ne.jp>
- イー・モバイル <http://dengon.emnet.ne.jp>
- ワイルコム <http://dengon.willcom-inc.com>
- <http://dengon.clubh.ne.jp>

毎月1日、正月の三日、防災週間(8月30日～9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)は、災害用伝言板を体験できます。もしもの時に備え、ぜひお試しください。

- 横浜市防災情報Eメール entry-yokohama@bousai-mail.jp
あらかじめパソコンや携帯電話から登録していただいた方に、横浜市防災情報をメールで配信します。
 - 緑区災害情報等配信メール midori-bousai-request@ml.city.yokohama.jp
緑区独自の緊急情報や防災に関するお知らせ等を携帯電話等に配信します。
- ※横浜市防災情報Eメールや緑区災害情報等配信メールは上記アドレスへ空メールを送信してください。すぐに案内メールが届きます。(緑区災害情報等配信メールは、件名に「Subscribe」を入力して、メールを送信してください。)

職場・学校に一日以上留まるための準備

大地震で交通機関が途絶えたとき、自宅が職場や学校から遠く離れている場合には、**職場や学校に一日以上留まり翌日以降に徒歩で帰宅**することを考えましょう。翌日帰宅は、大量の人が、一斉に徒歩で帰宅をすることによる混乱を抑えるのに大変効果的な方法です。**一日以上留まるための備蓄**が職場などにあるかどうか確認し、ない場合は自分で準備することも考えましょう。また、一日以上留まるための**安全なスペース**(建物の耐震性が確保され、かつオフィス家具の転倒防止対策やオフィス家具の未設置などにより地震に際して安全な空間が確保されている、執務室、教室、仮眠室、ホール・会議室など)があることも確認しましょう。

職場や学校に一日以上留まるための備蓄の例

食料 飲料水 簡易トイレ など

安全なスペース

オフィス家具未設置の空間
オフィス家具の固定

●外出時に持ち歩くと良い物

移動・買い物や旅行中に大地震に遭うことも考えられます。外出時には携帯電話のバッテリーまたは充電器、地図(緑区外も含む)などを持ち歩くと良いでしょう。

●自宅の耐震化や家具の転倒防止も大事

自宅の耐震化や家具等の転倒防止対策を実施することで、家族の負傷要因などを事前に減らしておきましょう。

我が家の安否確認手段

災害時の家族の集合場所

いざというときのダイヤルメモ

火事・救急・救助 119番
 犯罪・交通事故 110番
 災害用伝言ダイヤル 171番
 横浜市救急医療情報センター 201-1199

横浜市緑区役所総務課
〒226-0013 寺山町118
TEL:930-2208 FAX:930-2209

